

人力検索

かきつばた杯

テーマ：
二人分の荷物が
やけに重・・・
で始まる文章

Vol.5

まえがき

この本をお手に取っていただき、ありがとうございます。

この本は、[株式会社はてな](#)が運営するQ&Aサイト「[人力検索はてな](#)」内で行われたショート・ストーリーのコンテスト「[人力検索かきつばた杯](#)」を各回ごとにまとめたものです。

コンテストは各回ごとに出题者が決めた、時には難解な、時にはややこしいテーマに従って2000文字程度のショート・ストーリーを投稿するもので、いかにテーマを活かすか、またはいかに出题者の裏をかくか、いわば出题者と投稿者の知恵比べです。

ですから、この本をもっと楽しむために、まず「自分だったらこういうお話にするかなー」と考えてみることをお勧めします。実際に手を動かして書いてみると、もっといいかもしれません。もしあなたが文章を書くことに興味を持ったなら、巻末の解説文もぜひ読んでみてください。そう、かきつばた杯は誰にでも開かれているのです。もちろん、あなたにも。

<Data>

テーマ：二人分の荷物がやけに重・・・で始まる文章

出題者：grankoyama

募集期間：2010/11/18～11/24

URL：<http://q.hatena.ne.jp/1290052601>

※各投稿者のコメントや出題者の講評、投稿内容の後日談などが「人力検索はてな」のページには載っております。よろしければ、あわせてアクセスしてみてください。

<注意事項>

1. この本は電子ブックリーダーやスマートフォンでの読書を前提に、少し大きめの活字で作成しております。
2. この本ははてなユーザーが出題者や投稿者の許可を得て自主的に作成しているものであり、「株式会社はてな」による公式なものではありません。
3. 投稿者の許可が得られていない作品については、許可が得られた時点で掲載します。また、既にはてなを退会されており連絡が取れない方の作品については、省略させていただきます。

第5回 人力検索かきつばた杯テーマ

「二人分の荷物がやけに重・ ・ ・ で始まる文章」

あなたなら、どんなストーリーを創りますか？

目次

1. 二人分の荷物がやけに重・・・ by tsuruokakotaro (未許可につき未掲載)
2. 「二人分の荷物がやけに重いな...。」と言った途端、 by NazeNani
3. ニ～コニコ動画～、といういつもの音楽。 by yossiy7 (未許可につき未掲載)
4. 朝日が昇る前に by meefla
5. 二人分の荷物 by sokyō ☆
6. 『キミ荷物は持てない』 by alpinix
7. 二人分の荷物がやけに重い。 by castle (未許可につき未掲載)
8. ポリマー by takejin

- ☆印は出題者が選んだその回の優秀者です。
- 作品にタイトルがつけられていない場合、最初の文をタイトルとしてあります。

「二人分の荷物がやけに重いな...。」と言った途端、
「だって、これからは三人分、背負うんだもんね。パパ。」と
妻がにっこりと笑って言った。

「お、おまえ...！」

それから半年...

「おめでとうございます。元気な、男の六つ子の赤ちゃん達ですよ。
母子ともに健康です。これからは、お父さんですね。」

検診の時から知ってはいたが、
休みの少ない勤務医がいきなり大家族になってしまった。

子供の世話をお嬢様育ちの妻に任せきりでは大変なので、
はてなで質問して、スーパーナニーと評判の子守りを探して
月～金と雇うことにした。
最初は両親に子守りを頼もうかとも思ったが、
父がすすめた一郎、次郎...というおそ松くんの様に安易な命名案を
ことごとく却下したことがきっかけで、少々親子対立があり、
孫の姿を十分に堪能した後は、二人してご近所の老人会の皆さんと
エーゲ海クルーズの旅に行ってしまった。

確かに親の自己満足で、全員に凝った和洋折衷の名前を付けたものの、
誰が誰だか混乱して、よく名前を間違える。
それぞれの洋服に名前のワッペンを縫い付けて区別しているほどである。
Tom (十夢)・Ken (健)・Jo(丈)・Ray(玲)・Leon(伶音)・Jin(神)...
妻いわく、国際社会に向けての、インターナショナルな名前である。
...とはいえ、うちの名字は、山田である。

まだインターン上がりの病院勤務のため、時には救急も受け持ち、
ろくな睡眠不足もないというのに、家に帰れば子供のうちの一人は
絶対に泣き止まず、一人が泣くとみんなして夜泣き、
しょっちゅうお乳か何かをのどにつかえては
背中を叩いてやらねばならぬ子もいた。

おむつのゴミの量も半端ではなく、ゴミ収集車を
車で次の回収先へと追いかけてまでして
毎回持って行ってもらわないと、置き場がないほどであった。

一方で、通いで来てくれるスーパーナニーと妻は、
赤ちゃんからの幼児英才教育だと言って、
ディズニーの英語の歌を常にかけているため、
シンデレラが小鳥さんと一緒に歌う曲が頭から離れなくなり、
患者のカルテを書きながら無意識に口ずさんでしまうのであった。

「先生、お疲れのご様子ですが、幸せそうですよ。
陽気そうにディズニーの歌なんか歌っちゃって。」

看護婦の察する状況とは少し違うが、
ともあれ、賑やかで楽しい我が家ではある。

そんなある日...

ピーきゃーきゃーぎゃーわああああああん！！！！
ンドたんばたんきゃきゃきゃびえええええんん！！！！
ポーわーんわーんわああああああああんぎゃああああ！！！！
ンだだだだどどどがしゃばりんきえ～んえ～んえ～ん...！！！！

いつもの様に陽気な我が家に、ひっそりとドアのチャイムが響き、
何やら宅急便で家族八人連名の贈答用扱いの大きな荷物が届いた。

「なんだか、いくら八人分の荷物とはいえ、妙に重いな...。」

箱には、ペリカン便に訴えられるぞと思うくらい良く似た、
コウノトリ便のような絵が書いてある。

「ま、まさか...！」

<FIN>

二人分の荷物がやけに重かった。

離陸できるかも怪しい所だ。

私は、ヴィクセンに聞いてみた。

「大丈夫か？」

ヴィクセンは、ダッシャーと顔を見合わせた。

「自信ないですねー」

ヴィクセンの言葉に、ダッシャーも

「応援は来ないんですよね？」

と不安げだ。

私は首を横に振ると、ルドルフに尋ねた。

「どう思う？」

ルドルフは赤い鼻を光らせながら、即答した。

「できますよ。子供たちが待っているんですから」

どこまでも楽観的な奴だが、こういう時は頼もしい。

「そうだな。よし、行こうか」

私はソリに乗り込んだ。

東アジアの担当者になるのは、どんなサンタでもできれば避けたいというのが本音だろう。

中でも日本はよろしくない。

仏教徒の国の筈なのだが、クリスマスになるとサンタをあてにする子供が大勢いる。

そのくせ、靴下の近くにクッキーとミルクを置く、という心遣いのできる子はほとんどいないのだ。

まあ、事前に親がプレゼントを買っている子供は対象外なので、実数はあまり多くないのが救いだが、それでも「良い子リスト」には結構な人数がリストアップされている。

「サンタを信じている」と「一年間、良い子でいた」の両方を満たすのが、リストに載る条件だ。

昔は手書きだったので、リストを作るだけで大変な作業だったが、今はIT化されているので楽になった。

「悪い子」になれば、リストから自動的に削除されるようになったし。

エルフから、今年は日本の担当になったと知らされた時は軽く落ち込んだが、それでも [NORAD](#) の相手をするよりはマシか、と「良かった探し」をした。

一日かけて世界一周するだけの、簡単だが退屈なお仕事なのだ。

ところが、クリスマスイブの当日に出てみると、エルフが血相を変えていた。

中国担当のサンタが、新型インフルエンザにかかって寝込んでいるらしい。

どうやら下見に行った先でもらってきたようだ。

おまけに、サンタからうつされて、トナカイも寝込んでいると言う。

中国の分を誰かがカバーしなければならないわけだが、「地理的に東アジア担当で分担という事になりましたので、よろしく」というエルフのご託宣だった。

現場を知らない管理職は気楽なもんだ。

「サンタを信じている」どころかサンタの存在すら知らない子供も多い中国だが、忘れちゃいけない香港・マカオ。

北朝鮮はもともと数が少ないので韓国の担当サンタが受け持っているなど、余裕のあるサンタなんかいないとは言え、非常事態なので仕方がない。

韓国担当と台湾担当の二人に、日本担当の私を加えた三人で三等分したのである。

時差を考えて、日本から始めた。

面積は狭いので楽と言えば楽だが、それでも中国にたどり着いたのは深夜の三時。

はるかに広い中国で全てを配り終わる頃には、夜明けが近かった。

「やれやれ、これで終わりかな」

私はリストを確認した。

「あれ、日本でまだ一人残ってるぞ。おかしいな。中国に来る前にチェックした筈なのに」

「悩んでいる暇はありません。日本に戻りますよ」

ルドルフが言った。

私はソリを方向転換しながら、もう一度リストに目をやった。

「『具覧小山』？ 変わった苗字だな。モンゴル系？」

私が呟くと、ヴィクセンが答えた。

「そこまではわかりませんが、お父さんがプレゼントを買う予定になっていたのに、最初はリストに載っていなかったようです。ところが、お父さんはガンダムの続編を書くのに忙しくて、プレゼント買うのを忘れたとか」

「そうか。とにかくこれが最後のプレゼント先だ。予備のプレゼントも合わせて、大サービスしてあげよう」

私は、

「ホー、ホー、ホー。メリークリスマス」

と声をあげ、一路日本に向かった。

地平線を白々と染めている太陽と競争しながら。

(了)

その他の固有名詞や人権検索の質問などとは何の関係もありません。

最初に思いついたのは、F-4 という機種番号の女子大生アンドロイドが老人にラブレターを送ったり食事をしたりするお話を透明感のある文章で綴った「二人分の荷物がやけに重・・・」で始まる作品として、昨日まで頑張ってみたのですが、見事に挫折しましたとさorz

二人分の荷物 by sokyō

二人分の荷物がやけに重くて、俺はキャリーバッグを引く手を変えた。考えてみたら、今日は朝から利き手ばかり使っている。空いた左手を街灯に照らした。黒ずんで見えるのは多分、単に暗いからだけではない。

そもそも部屋には物なんてそんなに多くはなかった。最低限の日用品と着替えと現金と、あと俺ら人間がいなくなればそれでいい。近所付き合いは最初からろくにないし、旅行の前に隣近所に声を掛け合うような時代でもない。例え見掛けられたとしたって、ああ旅行にでも行くのだな、羽田から深夜に飛行機が出る時代だからな、と勝手に納得してくれるだろう。俺とアカリはもともと人前でべたべたするような趣味もなかったから、俺が一人で出かけるのもそんなに不審じゃないはずだ。

キャリーバッグを引く手を変えたら、また歩調が早まった。さっきからこんな、自分を納得させるような事ばかり考えている。もう戻れない。故に不安な気持ちは持っていて仕方がない。前に進むしかないのだ。

程なく駅前に着いた。自動改札は狭くて、キャリーバッグを引く向きでは通過する事ができなかった。俺は引くのを諦めて、取っ手を持って半ば無理矢理に自動改札を通った。キャリーバッグの角が自動改札機に当たった。だがその時、ちょうど下りの電車がやって来ていた。多くの乗客とすれ違う。少なくとも駅員の目にはそれほど触れていそうにない。

上りの電車はすぐに来た。乗り込んで、扉が閉まると俺は一息を吐いて、ドアの上の液晶ディスプレイを見るときも見ていた。失言した政治家がクビになったニュースが無音で流れている。どうやら政治家はミス回避し続けなければならない職業らしかった。一度でもミスをすると即死のシューティング・ゲームのようだ。しかも、常にラスト一機。俺には向かない。

俺はもう一度、自分の左手を見た。そして、キャリーバッグに目を遣った。深夜の上り電車は意外と混んでいた。みんな本当に、こんな自分とは関係のなさそうなニュースに関心があるのだろうか。

電車はターミナル駅に到着した。俺はまた歩き出して、JRに乗り換えた。歩き出すとキャリーバッグは再び重くなった。それはある意味で当然だ。これはただの旅行じゃない。いくら小柄だと言っても、計量してみれば総計60kgぐらいはあるだろう。しかし、それだとしても少し重すぎる。俺は再び、持ち手を左手に変えた。感覚としては60kgの倍はありそうだ。キャスター付きとは言え、重い。

「全財産つめた鞆が軽くてステキでしょ？」ってフレーズの曲を急に思い出した。あれは確か俺が大学1年で上京した時の曲だ。あの時は本当に全財産を詰めた鞆を両手で持つ事ができた。それから就職して、3年前にアカリと結婚して、どのタイミングでこんなに「全財産」が増えたのかよく分からない。今このキャリーバッグに入っているのは全財産のほんの一部だったはずなのに、それでもなおこんなに重い。こんなにしがらみが多い。俺はしがらみを断ち切ってしまいたくてこうして歩いているのに、これではまるで（キャリーバッグではなく）しがらみを引いて歩いているようだった。

開けてみようか。

そんな感情が一瞬だけ光る。

俺は臆病だ。どうせそんな事はしない。けれど、どこまでも手放さずにいるようだと、いずれ足が付いてしまうだろう。それに、俺は左利きだった。俺たちの身の回りで、なぜか左利きは俺だけだった。見る人が見れば、多分すぐに分かってしまうのだろう。

それにしても、どうしてこんなに重いのだろう。何か、予想していないものが入っているのだろうか。

開けるならどう考えたって家の近くの方がよかった。あんな各駅停車しか止まらない様な住宅街だ。ここより人通りだって少なかった。だが俺は既に京急のホームに背を向けて、品川駅の喧噪の中に暗がりを探していた。

品川は初めてだったが、駅前なのに本当に誰も通らないスポットは、不思議とすぐに見つかった。改札を出て、コンコースの階段を下るとデッドスペースがあった。俺は周りを再び確認してから、キャリーバッグのダイヤルをアカリの誕生日に合わせた。そして、そっと開いた。

血糊が剥がれる音がした。匂いは意外にない。ほの暗い光に照らされたアカリの顔は、まるで眠っているようだった。そしてなぜだかずっと若く見えた。

不意に、アカリの傍らにもう一人の人物がいる事に気づいた。重さの原因がやっと分かった。

3年前の状態で止まったままの、俺自身の死体があった。

俺がずっと引きずっていたのは、しがらみではなく未練だったのか。

そしてずっと探していたのは、暗がりではなくてきっかけだったのか。

俺は今日、運んできたのは一人分だとずっと思っていた。だが本当は二人分だと、最初から分かっていたのではないのか。

『キミ荷物は持てない』 by alpinix

二人分の荷物がやけに重い。

まだボクの身体では空を飛ぶには重かったらしい。理由は分かっている、余分にキミの荷物を背負っているからだ。

キミの先輩筋には地上の覇者と呼ばれるほどのツワモノがいたそうだけど、ボクはそれを見たことはない。

キミはいつもそれを鼻にかけて随分長い間エラそうにしていたけど、最後にはあのチビにだってナメられたね。

そんなキミも、今はボクが背負っているわずかな荷物しか残せなかったし。おごれるものもひさしからずやってね。

まあ、ボクにとってはキミの荷物はこれでも重過ぎるんで、少しずつ道端に打ち捨てていくと思うけど悪く思わないでくれ。

他のヤツらは知らないけど、ボクにはあの空に舞う使命があるのさ。

そんな骨ばった寂しそうな顔すんなよ。キミらしくないぜ。

ボクはこれから、キミの重い骨から中心を抜いて軽くしたり、余分な脂肪を削って代わりに羽毛を生やしたり、退化した前脚を翼にしたりする。キミの古い形質は文字通り“荷物“でしかない。

バイバイ、サウルス!

キミの荷物は古い地層に埋めていくよ!

ボクが天空の覇者となるために。

ポリマー by takejin

二人分の荷物が激しく重合し始めていた。

「しまった。近くに置きすぎたんだ。」

ワシは思わず、ジュウジュウと煙を上げて反応している物質に駆け寄った。

「博士、危ない！」

健が私にぶつかってきた。私は床に転がった。

「うわあああ」

振り返ると、健が重合体の中でもがいている。私は、その様子を観察しながら呟いた。

「ターゲットが違ってしまったが、仕方があるまい。」

「ハカセ、たすけてく」

健が動かなくなった。重合体も温度が下がったようだ。

私は、健の頬を叩いた。

「おい、大丈夫か？」

健の目が開いた。

「あ。ハカセ。だいじょう」

と言いつつ、健は天井まで飛び上がった。

「ハカセ。これは」

着地した健に、私はこう言った。

「これは、超重合体だ。君の体の防護と強化構造体になる。」

「何で私が」

「日本に、このポリマーを持っていくはずだったんだが、さっき、そこで重合し始めちゃったからね。君に代わり装着してもらった。」

「そうですか、テストですね。どうやったら外れるんですか」

「無理だ」

「え」

「はずせないんだ。それは」

「じゃあ、このカッコのままですか。私」

「そうだ」

私の目の前には、キングギドラが立っていた。

重いという呪縛を外そうとして、失敗しました。

その他にも、

重箱、重巡洋艦、重松清、重慶飯店、重なる、重水素、など。

それから、更に違反。

「二人分の荷物が焼け、二重星の光の下で、僕らは呆然と立っていた。」とか。
すみません、ふざけた奴です。

解説（人力検索かきつばた杯について）

この本を手にとられて、「人力検索かきつばた杯」に参加してみたいと思ったあなたのために、参加方法を簡単に解説しておきます。

参加には以下のステップが必要です。順を追って、説明いたします。

1. 「はてな」へのユーザー登録
2. 「人力検索はてな」内で開催されているかきつばた杯への投稿or「人力検索はてな」内でのかきつばた杯の開催

1. 「はてな」へのユーザー登録

「人力検索かきつばた杯」は複合サービスサイト「はてな」の中で行われているので、まずは「はてな」へのユーザー登録が必要です。「はてな」へのユーザー登録にはメールアドレスが必要ですが、有料オプション（※）を使用しない限り費用は発生しません。なお、「はてな」へのユーザー登録を行うとQ&Aサイトである「人力検索はてな」以外にも「はてな」内のブログ（はてなダイアリー）やオンラインフォトストレージ（はてなフォトライフ）などのサービスが利用できるようになります。

（※）有料オプションには、例えばブログ内で広告を出さないようにしたり、ストレージの容量を上げたりするもののほか、人力検索でポイントつき質問をするものなどがあります。

「はてな」へのユーザー登録は「はてな」のトップページからできます。

2-A. かきつばた杯へ投稿する（費用負担なし・初心者向き）

無事ユーザー登録を終えたら、「人力検索はてな」でかきつばた杯が開催されているか調べてみましょう。トップページ最上部の検索窓に「かきつばた杯」と入力して検索をかけると過去のものも含めた一覧が出てきます。最も上にあるのが最新のものですので、開催中のページ（Q&Aサイトですので、「質問ページ」と呼ばれます）を開いてみましょう。ここではサンプルとして

第1回の質問ページのスクリーンショットを掲載します。

hokuraku
110 105 もっと見る

ポイントあり 219 pt ベストアンサーあり
芸術・文化・歴史 ネタ・ジョーク

【人力検索かきつばた杯】

テーマ:透明感のある文章

創作文章(ショート・ストーリー)を募集します。
ルールははてなキーワード【人力検索かきつばた杯】を参照してください。

締切は10月6日(水)朝6時、締切後に一斉オープンします。

★★★★

規約違反として通知

(広告スペースのためモザイク処理しておきます)

回答の条件
✓1人1回まで ✓13歳以上

登録:2010/10/01 06:59:34
終了:2010/10/07 05:26:48

ログイン状態で質問ページにアクセスした際に、まだ投稿を受け付けている場合は、この画像の下にある広告スペースと灰色の部分との間に「回答する」というオレンジ色のボタンが出ています。(画像のものはもう終了した回なのでボタンがありません)

投稿は回答用のテキストボックスに記入し、「この内容で確認する」というボタンを押せば(内容確認を経て)投稿できます。長い文章なので、あらかじめ別のファイルに書いておいてコピーするほうが安全ですよ。また、慣れてくればテキストの文字サイズや色を変えたり画像を入れたりすることも可能ですので、ぜひトライしてみてください。

え？投稿を受け付けているものがない？そんなときは、あなたがテーマを決めてかきつばた杯を開催することも可能です。

2-B. かきつばた杯を開催する(費用負担あり・上級者向き)

「人力検索はてな」は最近リニューアルして費用負担なしに質問をすることができるようになりましたが、「人力検索かきつばた杯」では以前からの慣習もあり、テーマを決めた主催者から投稿者に対して「はてなポイント」（はてな内で使える仮想通貨のようなもの）を送ることにしています。（つまり、あなたが投稿者なら出題者からポイントをもらえる、ということです）送るポイント数には決まりがありませんが、投稿者一人当たり大体20～30ポイント（20～30円相当）くらいが多いようです（ポイントは購入するか、ポイントつき質問に答えて貯めましょう。なお、ポイントつき質問の最低必要ポイント数は100ポイントです）。

質問文自体はテーマ以外が定型文ですので、既にあるものをコピーさせてもらいましょう。もしあなたが人力検索で初めて質問をする場合、質問文中に「初めての質問ですので至らないところがあったら申し訳ありません。」とでも書いておけば、親切な皆さんが色々と教えてくれるでしょう。あらかじめ過去の質問（開催状況）に目を通しておくと雰囲気がかめると思います。

人力検索かきつばた杯 ～二人分の荷物がやけに重・・・ で始まる文章～

<http://p.booklog.jp/book/43324>

著者 : hokuraku

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hokuraku/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43324>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43324>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.